

法人名	公益財団法人愛媛県動物園協会
-----	----------------

所管部(局)課	土木部 都市整備課
---------	-----------

1 法人の概要

令和 2 年 3 月 31 日 現在

代表者名	理事長 佐伯 要	ホームページURL	<a href="http://www.tobezoo.com/">http://www.tobezoo.com/</a>		
所在地	愛媛県伊予郡砥部町上原町240番地	電話番号	089-962-6000		
基本金・資本金等	20,000 千円	設立年月日 (移行年月日)	昭和62 年 4 月 1 日 (平成22 年 6 月 1 日)		
主な出資者	出資者名		出資額(千円)	出資比率(%)	
	愛媛県 (利益繰入)		10,000	50.0	
			10,000	50.0	
設立目的	愛媛県立とべ動物園の有効利用の推進に協力するとともに、動物の知識及び動物愛護思想の普及を図り、もって県民の教育文化の向上に寄与することを目的とする。				
設立の経緯及び経過	平成22年6月1日公益財団法人に移行				
主な事業内容	県から委託を受けて行う愛媛県立とべ動物園他の維持管理運営、動物園事業に関する援助協力、動物の知識及び愛護思想の普及事業、遊具売店他の収益事業			管理受託施設 (指定管理者施設を含む) 愛媛県立とべ動物園、総合運動公園の自由広場及び駐車場	

2 組織の状況

(単位:人)

区分	年度	平成28年度					平成29年度					平成30年度					令和元年度					増減	左記の増減理由
		合計	プロパー	うち派遣	うち県職員(兼務)	うち県職員OB	合計	プロパー	うち派遣	うち県職員(兼務)	うち県職員OB	合計	プロパー	うち派遣	うち県職員(兼務)	うち県職員OB	合計	プロパー	うち派遣	うち県職員(兼務)	うち県職員OB		
評議員		3	0	0	1	0	3	0	0	1	0	3	0	0	1	0	3	0	0	1	0	0	
常勤		0	0	0	/	0	0	0	0	/	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
非常勤		3	0	/	1	0	3	0	/	1	0	3	0	0	1	0	3	0	0	1	0	0	
理事等		8	0	0	0	2	8	0	0	0	1	8	0	0	0	1	8	0	0	0	1	0	
常勤		2	0	0	/	2	2	0	0	/	1	2	1	0	0	1	2	1	0	0	1	0	
非常勤		6	0	/	0	0	6	0	/	0	0	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	
職員		71	65	3	0	3	67	63	3	0	1	65	60	3	0	2	66	61	3	0	2	1	
正規職員		42	36	3	0	3	40	36	3	0	1	42	37	3	0	2	43	38	3	0	2	1	ボランティアセンター設置による正規職員1名増員
非正規職員		29	29	/	/	0	27	27	/	/	0	23	23	0	0	0	23	23	0	0	0	0	
常勤職員		17	17	/	/	0	15	15	/	/	0	13	13	0	0	0	13	13	0	0	0	0	
非常勤職員		12	12	/	/	0	12	12	/	/	0	10	10	0	0	0	10	10	0	0	0	0	
県関係職員の実数		/	/	3	1	3	/	/	3	1	1	6	/	3	1	2	6	/	3	1	2	/	
県退職後2年内雇用OB		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	2	/	/	/	/	2	/	
役員・職員の兼務等特記事項		H28,29,30、R1常務理事兼事務局長、理事兼園長(ともにプロパー)																					

※役員・職員の兼務等特記事項については、プロパー、県職員の別を明記してください。

法人名 公益財団法人愛媛県動物園協会

3 実施事業評価表

※事業計画書に記載されている主要事業については、必ず記載してください。

(単位:千円、%)

事業名1		区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)
動物園管理他に関する事業		経常費用	579,680	585,286	574,856	583,932	594,917	1.9	
		うち 人件費	313,886	324,939	315,370	329,017	328,993	△0.0	
		経常収益	580,092	572,158	565,027	556,785	589,867	5.9	
事業 開始年度		うち 県補助金等	351,215	364,212	351,826	342,788	373,390	8.9	
事業 終了年度	※予定、見込みがある場合	うち 受取寄付金額等	3,606	5,109	3,474	4,150	5,950	43.4	サポーター及び個人寄付が増えたため
成果指標	指標項目(単位)		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	増減率 (前年度比)	指標選定理由
	入園者満足度(%)		92.8	91.3	95.3	92.4	93.1	0.8	来園者の期待に応えるための動物園を目指す。満足度80%を目指す。アンケート調査による、園内施設に対する満足度83.5%、動物の展示に関する満足度97.2%、職員の勤務態度に関する満足度98.7%の平均。
								-	
事業内容 (事業の目的、期待される効果、これまでの成果等)		動物園の維持管理を行い、来園者に満足してもらえる施設づくりを目指す。							

(単位:千円、%)

事業名2		区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)
鳥獣保護・調査研究事業		経常費用	2,856	1,033	515	497	508	2.2	
		うち 人件費	1,420	488	474	495	495	0.0	
		経常収益	2,856	1,033	515	497	508	2.2	
事業 開始年度		うち 県補助金等	468	492	497	497	496	△0.2	
事業 終了年度	※予定、見込みがある場合	うち 受取寄付金額等						-	
成果指標	指標項目(単位)		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	増減率 (前年度比)	指標選定理由
	鳥獣保護受入割合(%)		100	100.0	100.0	100	100	0.0	野生鳥獣の保護要請に対する受入割合(100%)目標
								-	
事業内容 (事業の目的、期待される効果、これまでの成果等)		野生傷病鳥に関して、適切な保護要請があれば受け入れを行い、治療後自然界へ戻す。							

(単位:千円、%)

事業名3		区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)
協力・普及活動事業		経常費用	3,770	3,701	7,427	7,599	4,141	△45.5	契約職員1名を動物園管理事業の雇用に振りかえたため、ただし人件費は、全体の按分で計算したため減っていない。
		うち 人件費	2,224	2,296	2,228	2,324	2,324	0.0	
		経常収益	3,780	3,701	7,247	7,599	4,141	△45.5	
事業 開始年度		うち 県補助金等						-	
事業 終了年度	※予定、見込みがある場合	うち 受取寄付金額等		620	535	581	620	6.7	
		指標項目(単位)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	増減率 (前年度比)	指標選定理由
成果指標		イベント・教育事業への参加者満足度(%)	89.8	98	96	92	93	0.8	来園者の期待に応えるための動物園を目指す。満足度80%を目指す。アンケート調査による、園内施設に対する満足度83.5%、動物の展示に関する満足度97.2%、職員の勤務態度に関する満足度98.7%の平均。
								-	
事業内容 (事業の目的、期待される効果、これまでの成果等)		イベント・教育事業を行い、動物に対する興味や知識、命の大切さなどを学んでもらう。							

(単位:千円、%)

事業名4		区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)
収益事業		経常費用	63,757	56,570	55,468	50,390	54,167	7.5	
		うち 人件費	13,723	14,164	13,747	14,342	14,341	△0.0	
		経常収益	88,768	69,993	73,540	72,694	75,094	3.3	
事業 開始年度		うち 県補助金等						-	
事業 終了年度	※予定、見込みがある場合	うち 受取寄付金額等						-	
		指標項目(単位)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	増減率 (前年度比)	指標選定理由
成果指標		利益率(%)	28.2	19.2	24.6	30.7	27.9	△9.2	収益事業の安定性、健全性を保つため、利益率20%以上を目指す。
								-	
事業内容 (事業の目的、期待される効果、これまでの成果等)		園内売店、遊園地、自動販売機等、来園者の利便性を向上させるため収益事業を実施。							

法人名 公益財団法人愛媛県動物園協会

4 財務状況

(単位:千円、%)

区 分		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (個々の項目で前年度10%前後の増減及び 当該年度特有の事情による増減があった場合に記入)
【正味財産増減計算書】	経常収益計	663,952	633,461	628,267	615,332	648,964	5.5	
	うち公益目的	576,368	563,468	554,717	542,577	571,877	5.4	
	うち基本財産運用益	29	29	29	32	40	25.0	
	うち公益目的	29	29	29	32	40	25.0	定期利率の増
	うち事業収益	301,260	256,483	271,123	265,638	266,601	0.4	
	うち公益目的	213,766	186,588	202,394	188,019	191,839	2.0	
	うち受取補助金等(委託料・ 負担金含む)	351,372	364,704	352,323	343,285	373,886	8.9	
	うち公益目的	351,372	364,704	352,323	343,285	373,886	8.9	
	経常費用計	646,985	647,674	639,123	643,512	654,814	1.8	
	うち公益目的	581,925	590,020	582,618	592,028	599,567	1.3	
	うち事業費	637,410	637,368	632,083	646,953	648,386	0.2	
	うち公益目的	581,925	590,020	582,618	592,028	599,567	1.3	
	うち管理費	9,576	10,306	7,040	6,559	6,428	△2.0	
	うち公益目的	0	0	0	0	0	-	
当期経常増減額	16,967	-14,213	-10,856	-28,181	-5,850	79.2		
当期経常外増減額	-5	0	-1	0	0	-		
当期正味財産増減額	11,863	-19,372	-10,399	-28,271	-72	99.7	動物園管理委託料の増額により減少額が減った。	
【貸借対照表】	資産	500,749	488,175	488,508	473,075	469,998	△0.7	
	流動資産	95,779	90,384	82,777	90,889	64,997	△28.5	30年度末は日曜日で、未払金が多く預金残が多かった。
	固定資産	404,970	397,791	405,731	382,186	405,002	6.0	
	うち基本財産	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	0.0	
	負債	366,699	373,498	384,230	397,068	394,064	△0.8	
	流動負債	65,099	53,570	56,054	76,707	57,088	△25.6	30年度末は日曜日で、未払金が多く預金残が多かった。
	うち短期借入金	0	0	0	0	0	-	
	固定負債	301,600	319,928	328,176	320,361	336,975	5.2	
	うち長期借入金	0	0	0	0	0	-	
	正味財産	134,049	114,677	104,278	76,007	75,935	△0.1	
指定正味財産	19,169	14,010	14,467	14,376	20,154	40.2	寄付金の増	
一般正味財産	114,881	100,668	89,812	61,631	55,781	△9.5		
負債・正味財産合計	500,749	488,175	488,508	473,075	469,998	△0.7		

【人件費内訳】

(単位:千円、%)

区 分		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)
役員人件費		690	740	690	740	650	△12.2	理事会1回を書面開催としたための報酬減少
職員人件費	うち事業費分	328,924	339,587	329,442	343,774	343,714	△0.0	
	うち管理費分	2,329	2,300	2,377	2,403	2,438	1.5	
	小 計	331,253	341,887	331,819	346,177	346,152	△0.0	
合 計		331,943	342,627	332,509	346,917	346,802	△0.0	

【県の財政的関与】

(単位:千円、%)

区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)
負担金	0	0	0	0	0	-	
補助金	0	0	0	0	0	-	
委託料	351,349	364,704	352,323	343,285	373,886	8.9	
うち指定管理委託料	350,881	350,881	351,826	341,388	372,383	9.1	
うち再委託額	93,053	96,026	95,292	94,817	97,002	2.3	
貸付額	0	0	0	0	0	-	
県支出金計	351,349	364,704	352,323	343,285	373,886	8.9	
貸付残高(期末)	0	0	0	0	0	-	
損失補償に係る債務負担残高(期末)	0	0	0	0	0	-	

【県の財政的関与の内訳】(R元年度)

(単位:千円)

区分	名称	金額	左記の内容 <small>※それぞれの始期を(終期が決まっている場合は終期も)記載すること。単年度のみを負担金等は、その旨を記載。 ※貸付金については、貸付期間も記載すること。</small>
負担金			
補助金			
委託料	とべ動物園他指定管理料	372,383	指定管理協定に基づく愛媛県立とべ動物園、総合運動公園の自由広場及び駐車場の維持管理運営
	野生傷病鳥獣保護事業	496	傷病鳥獣の保護 ツバメなど
	無料送迎バス事業	572	県内各地から動物園までのバス送迎
	ふれあい動物園受託事業	435	移動動物園事業
貸付金			
損失補償			

【財務関係指標】

(単位:%)

区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	増減	指標計算式
県財政支出依存度	52.9	57.6	56.1	55.8	57.6	1.8	県からの補助金等(補助金・負担金・委託金)÷経常収益計×100
県受託事業の再委託度	26.5	26.3	27.0	27.6	25.9	△1.7	県からの受託事業の外部委託費÷県からの受託事業費×100
人件費比率	51.3	52.9	52.0	53.9	53.0	△0.9	人件費÷経常費用計×100
管理費比率	1.5	1.6	1.1	1.0	1.0	△0.0	管理費÷経常費用計×100
正味財産比率(会社法人及び公社以外)	26.8	23.5	24.1	16.1	16.2	0.1	正味財産÷(負債+正味財産)×100
流動比率	147.1	168.7	147.7	118.5	113.9	△4.6	(流動資産÷流動負債)×100
借入金依存率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	(長期借入金+短期借入金)÷資産×100
公益目的事業比率	89.9	91.1	91.2	90.6	91.6	1.0	(公益目的事業費)÷(公益目的事業費+収益事業等の費用+管理費)×100

法人名 公益財団法人愛媛県動物園協会

5 法人の現状及び過去の評価結果

法人の現状	<p>経営の安定を図るため、とべ動物園の入園者数の確保と経費節減に積極的に取り組んでいる。</p> <p>また、平成22年6月に公益財団法人に移行し、法人としての自立性の向上、組織体制の強化、公益事業の一層の推進に努めている。</p> <p>平成31年度から5年間とべ動物園の指定管理者に指定されている。</p>
県出資法人改革プランに基づく最終点検評価結果(平成22年度総評)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当法人は、平成18年度からの指定管理者制度導入以後、様々な工夫した取り組みを実施した結果、とべ動物園の入園者数、入園料収入を増加させており、その取り組みは大いに評価できる。</li> <li>・開園して22年を経過している施設の維持改修については、入園者数、利用料金収入の増加を図る観点も含め、県と協議して計画的に実施していただきたい。</li> <li>・獣医の県職員派遣は、当法人の公益性や経営状況等を勘案し、将来的にはノウハウ等を継続した上で、プロパー化を進めていただきたい。</li> </ul>
県出資法人経営評価指針に基づく経営評価結果(平成23～25年事業総括)	<p>○21年度には、高速道路利用料金の大幅な割引制度の実施や全国的な動物園ブームの影響で、利用者数及び入園料他収入は開園当初6年間を除き最大となっていたが、割引制度終了後は、利用者及び入園料他収入が減少し、評価全期間において赤字を計上しており、収支の両面からの改善に早急に取り組んでいただきたい。</p> <p>○人口の減少、少子化、レジャーの多様化、動物園ブームの終焉、中四国地区の他園との競争、獣舎リニューアルに活用していた助成制度の廃止など、動物園を取り巻く環境が厳しさを増す中、25年度の利用者数はピーク時(21年度)の約4分の3近くまで落ち込んでおり、利用者数の確保が喫緊の課題となっている。このため、イベント開催などソフト面の充実、人気動物の繁殖や展示方法の工夫など来園者サービスの向上を図るとともに、近隣施設との連携強化を進めるなど、様々な対策を検討・実施のうえ、利用者の確保につなげていただきたい。</p> <p>○新公益法人体系への移行に伴い、評議員制度を導入し、組織体制の見直しを図ったことは評価できる。</p> <p>○獣医師の県職員派遣は、法人の公益性や経営状況等を勘案したうえで見直すべき長期的課題であり、将来的にはノウハウ等を継続したうえで、プロパー化に取り組まれない。</p>
県出資法人経営評価指針に基づく経営評価結果(平成26～29年事業総括)	<p>○動物の高齢化や病気・ケガ等を原因とする死亡が相次ぎ、心を痛める県民が多いため、繁殖技術の向上に努めるほか、県の適切な財政関与の下で新しい動物の確保、展示方法の工夫を推進するなど、公立の動物園にふさわしい魅力ある施設整備等に努めること。</p> <p>○正味財産比率がここ数年減少傾向にあることから、経営の基盤を強化すべく、適切な管理運営に必要な経費について県の担当課と協議するとともに、中期経営計画にあるように、SNSツールを活用した広報や営業力の強化など、入園者及び収入の増加に努めること。</p> <p>○県からの獣医師の派遣については、法人の公益性や経営状況を勘案した上で見直すべき課題であることから、将来的にはノウハウ等を継承し、プロパー化するよう引き続き取り組むこと。</p>

6 令和元年から令和4年における2次評価内容

令和元年	<p>①30年度の財務状況は、当期経常増減額が、29年度の -10,856千円から -28,181千円と赤字幅が拡大、一般正味財産も28,181千円減少した。</p> <p>これは、人件費の増加などにより、「動物園管理他に関する事業」の収支が -9,829千円から -27,147千円に大幅に悪化したためであり、効率的な人員配置・経費の更なる節減に努めるほか、展示動物の充実や施設の改修といった魅力向上に取り組み、来園者数の増加・サポーターの拡大による収入の確保など、収支の改善を図ること。</p> <p>②獣医師については、厳しい経営状況にあるが、ノウハウの継承や繁殖技術の更なる向上など動物保護施設としての役割を高めるためにも、プロパー化の検討を継続すること。</p> <p>③ツイッターを活用した魅力発信や、ホームページに複数期分の事業報告を掲載するなど、公開情報の充実に取り組んでいることは評価できる。引き続き、ホームページやSNS、マスコミなどを活用した効果的な情報発信に努め、来園者数の拡大に努めること。</p> <p>なお、財務状況に関する情報の公開・提供(ホームページ・パンフレット等)に当たっては、説明責任を果たすためにも、正確で分かりやすい表現に努めるほか、事業ごとの具体的な状況(収支・成果)の記載にも努めること。</p>
令和2年	
令和3年	
令和4年	

7 県出資法人経営評価指針に基づく今後の課題と取組実績

(1) 出資法人の自主性・自立性の向上

○組織体制の見直し、役職員数及び給与制度の見直し

取り組むべき課題		
取組内容	共通	
	令和元年	
	令和2年	
	令和3年	
	令和4年	

○経営基盤の充実強化、経営におけるPDCAサイクルの実践

取り組むべき課題		利用の促進を図り、利用料金の増収とともに、天候などに左右されない安定した収入の確保についても努力する。経費の節減にも努める。
取組内容	共通	積極的なイベント開催やPRによる来園者サービスの向上を図るとともに、経費の節減に努める。
	令和元年	来園者のニーズに応え、研究活動報告会や砥部町の成人式への参画等で、新たな入園者層の呼び込みに努めた。
	令和2年	
	令和3年	
	令和4年	

(2) 県の関与の適正化

○財政的関与の見直し

取り組むべき課題		法人の財政基盤の強化
取組内容	共通	適正な指定管理委託料の確保
	令和元年	利用者の増加に努めるとともに、指定管理委託料の確保を図った。
	令和2年	
	令和3年	
	令和4年	

○人的関与の見直し

取り組むべき課題		獣医のプロパー化	
取組内容	共通	県と協議しながら現在は県職員である獣医のプロパー化の検討を進める。	
	令和元年	引き続き、県と協議しながら検討を進めた。	
		プロパー職員育成に係る取組	出張や研修により、技術や知識を深めた。
	令和2年	プロパー職員育成に係る取組	
		令和3年	
令和4年	プロパー職員育成に係る取組		

※プロパー職員育成計画等を作成している場合は添付してください。

○出資法人の活用

取り組むべき課題		近隣の県施設との連携	
取組内容	共通	こどもの城や運動公園との連携による集客を図る	
	令和元年	引き続き、駐車場の共有化を実施した。	
	令和2年		
	令和3年		
	令和4年		

※特に、産業振興や地域活性化への関与、貢献に当たる取組みや事業を記載してください。

(3) 法人情報等の積極的な開示等

○法人情報の公開

取り組むべき課題		財務状況に関する正確な情報提供	
取組内容	共通	HPに事業ごとの具体的な成果を記載する	
	令和元年	HPに事業報告他を記載している。	
	令和2年		
	令和3年		
	令和4年		

○認知度の向上

取り組むべき課題		更なる情報の公開、とべ動物園のPR	
取組内容	共通	様々なツールを活用しながらPRに努める。	
	令和元年	HP、ツイッター、フェイスブック、ユーチューブを活用し、動物の誕生やイベント情報を周知した。	
	令和2年		
	令和3年		
	令和4年		

8 令和2年度評価

(1) 1次評価

<p>法人による評価</p>	<p>令和元年度は、引き続き広報・営業班による広報宣伝活動など入園者の増加に取り組んだことや、動物園魅力向上戦略検討委員会の検討結果を踏まえて県が昨年度に引き続いて実施したグランピングや冬季のイルミネーション等により2月までは、対前年度3%増と好調で、そのまま推移すれば合計48万人程度の入園者が見込まれたが、3月からの新型コロナウイルス肺炎感染症の影響を受けて、最終的に454,888人、対前年度5420人の減少(-1%)となった。</p> <p>収支面でも、当期収支差額は、9,000千円程度の赤字となり、さらに、令和2年度も深刻な影響を受け続けていることから、収入減少のダメージは大きく、当面の資金繰りに苦慮しているような現状であり、活用できる補助金等を申請した上で、対応を県に要望している。一方で、動物園の魅力の向上につながる情報発信や、感染症対策を踏まえたうえで実施可能なイベント開催による入園者の確保に努めるとともに、今年度に県が予定しているアシカの泳ぐ様子が見られるアシカ舎施設の改修、こどもの城とトラ舎前をアスレチック遊具でつなぐジップライン工事などを実施し、利用者数の回復に努めたい。</p>
<p>法人所管課による評価</p>	<p>令和元年度はSNSを活用したPRや、アフリカゾウの子供やしらくまピース、サーバルの仔の成長情報などをテレビや新聞を通じて情報提供をするといった広報活動に努めており、前年度と比べ入園者数の増加が見込まれていたが、3月の新型コロナウイルス感染症の影響を受け、年間入園者数は減少した。</p> <p>また、他園とのブリーディングローンによりライオンやコツメカワウソの搬入を行っているほか、サイやピューマなど多くの動物の繁殖に成功しており、高い繁殖技術を有している点は高く評価できる。</p> <p>令和元年度の収支差額は赤字となっているが、令和2年度に柔軟な収益事業を実施するため定款を一部変更しており、今後は収益事業の拡大によって収支改善に向けた取り組みを強化していくことが求められる。</p>

(2) 2次評価

<p>①元年度の財務状況は、当期経常増減額が、30年度の -28,181千円から -5,850千円と赤字幅は縮小したものの、4期連続で赤字が続いており、一般正味財産は5,850千円減少した。引き続き、効率的な人員配置・経費の更なる節減に努めるとともに、2年度末にオープンが予定されている、動物園とこどもの城をつなぐジップラインを活用した誘客促進など、こどもの城等の近隣の施設との連携や新型コロナウイルス感染症対策を踏まえたイベント開催等を通じて、来園者数の増加につなげ、収支の改善を図ること。</p> <p>②獣医師については、厳しい経営状況にあるが、ノウハウの継承や繁殖技術の更なる向上など動物保護施設としての役割を高めるためにも、プロパー化の検討を継続すること。</p> <p>③SNSを活用したPRや、テレビや新聞を通じた広報活動に努めていることは評価できる。今後も効果的な情報発信に努め、来園者数の拡大に努めること。</p>
--